



看護問題対策委員会ニュース

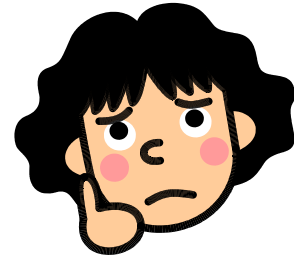
全日本赤十字労働組合連合会

NO.07-03 07.09.19

『私たちの永遠の課題・・・それは夜勤』

ご存じの通り、私たちの職場（病院）は、365日24時間必要な看護を提供する体制をとっています。なので、夜間や休日の勤務があります。しかしこの夜勤や休日出勤は、個々の労働者の生活に大きく影響を与え、大きな労働条件にもなっています。そこで、より良い夜勤について考えてみたいと思います。

“日勤深夜”勤務でも、日勤が終わらず帰れません（><。）同じようにながく働くなら2交替の方がましかも・・・



“日勤深夜”の負担を軽くするヒントは？-ある日赤病院での取り組み

『まず、日勤して時間外労働して深夜という勤務はありません。深夜勤務の前は、休みもしくは午前勤務、または日勤の仕事が終わった段階で早めに帰らせるなど職場で意識的に行っている（この時の休みは半年休などを利用している）。また、日勤でも、重症者は受け持たないなど軽い業務を割り当て、日勤スタッフが「深夜入り」を大事にしています。夜勤入りはお互いさまなので、スタッフ同士が協力してします。そのため、深夜勤務前の時間にゆとりがあり、しっかり休息が取れるので夜勤が辛くないです』～これは、この前の”全日赤2交替反対学習集会”でのある日赤病院で勤務する看護師の発言を要約したものです。ちょっと「目から鱗」だと思いませんか？（私だけでしょうか（^_^;））そもそも深夜入りでさえ時間内で帰れないくらい人手が足りないのが問題なのだと感じています。

日本看護協会でも～『SHOKUBA SUPPORT BOOK』より

****夜勤の負担を軽減するヒントは、シフトの組み方に****

交替制勤務では「周日（サーカディアン）リズム」になるべく逆らわない「時計回り」の勤務で、生理的な負担を軽減できると言われています。たとえば3交替制なら「日勤」「準夜勤」「公休」「深夜勤」の順で各人のシフトを組みます。勤務と勤務の間隔も、最低12時間はあけたものです。

****まだまだ受付中!!****

2007年度夜勤実態調査

「7:1」看護アンケート

本部まで お願いします